

イノベーションの歴史的起点

— 明治日本における西洋機械技術の導入 —

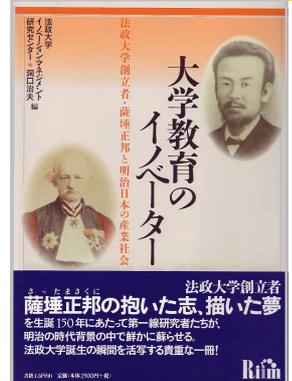
Starting Point of Innovation in Historical Perspective: Introduction of Western Mechanical Engineering to Meiji-Japan

明治日本の産業化については、それを後発資本主義の工業化と捉える見方と産業革命の世界的普及と捉える見方が並存しています。経済発展を歴史的な循環過程として捉えることによって、「イノベーションが繰り返される」という見解を提示したのは、シュンペーターでした。その見解にしたがうならば、イノベーションの普及という一般普遍的な過程の例示として明治の産業化を捉えることができますこととなります。しかし、50年から70年にわたる長期波動を形成するコンドラチェフ循環をたどるといふシュンペーターのイノベーション研究は、宇宙のビッグバンのようなスターティング・ポイント(起点)を確定しなければ成り立たない論理であるのかもしれない。

2008年4月10日に刊行された、法政大学イノベーション・マネジメント研究センター、洞口治夫編『大学教育のイノベーター 法政大学創立者・薩埵正邦と明治日本の産業社会』(書籍工房早山)の各章の著者が、それぞれに重要性を指摘した横須賀造船所に焦点をあて、その研究の第一人者であるフランス・リール第一大学、エリザベス・トゥーシェ准教授をお招きし、講演とパネルディスカッションによって議論を深めます。

※日仏同時通訳つき・参加無料

※当日、『大学教育のイノベーター 法政大学創立者・薩埵正邦と明治日本の産業社会』の見本を展示します。ぜひお手に取ってご覧ください。



プログラム (敬称略)

- 13:00~13:05 【ご挨拶】 矢作敏行(当研究センター所長、法政大学経営学部教授)
- 13:05~13:20 【シンポジウムのテーマ・趣旨説明】 洞口治夫(法政大学経営学部教授、当研究センター所員)
- 13:20~14:20 【プレゼンテーション】 **イノベーションの歴史的起点 — 横須賀造船所と西洋技術 —**
エリザベス・トゥーシェ < Dr. Elisabeth Weinberg de Touchet >
(フランス・リール第一大学准教授 < maître de conférences, Université Lille 1 >)
- 14:20~14:40 【質疑応答】
<コ－ヒーブレイク>
- 15:10~16:30 【パネルディスカッション】 **日本における外国技術の吸収過程**
<パネリスト> エリザベス・トゥーシェ(フランス・リール第一大学准教授)、今井幹夫(富岡製糸場総合研究センター所長)
尾高煌之助(法政大学名誉教授)、鈴木 淳(東京大学大学院人文社会系研究科・文学部准教授)
《司会》 洞口治夫(法政大学経営学部教授、当研究センター所員)

■日 時 2008年 **7月24日(木) 13:00 ~ 16:30**
■会 場 **法政大学市ヶ谷キャンパス(富士見校舎) ボアソナード・タワー 26階 スカイホール**

■参加費 無料

■定員 先着100名(定員に達し次第締切)

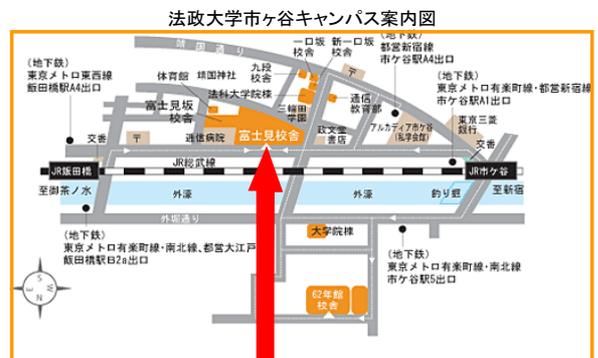
■使用言語 同時通訳つき(日本語⇄フランス語)

■申込方法 氏名、所属、連絡先の郵便番号・住所・電話番号・FAX番号、E-mailアドレスを明記の上、FAXまたはE-mailで法政大学イノベーション・マネジメント研究センター宛にお申し込みください。締め切りは7月23日(水)です。

※個人情報の扱いは厳重に管理しております。法政大学に関連するイベント開催等の通知を目的としており、それ以外の目的では使用していません。

■申込先 **法政大学イノベーション・マネジメント研究センター**
FAX:03-3264-4690 E-mail:cbir@adm.hosei.ac.jp

■その他 お車でのご来場はご遠慮ください。



法政大学市ヶ谷キャンパス(富士見校舎)ボアソナード・タワー26階
スカイホール

主催:法政大学イノベーション・マネジメント研究センター 協力:法政大学比較経済研究所、法政大学国際日本学研究センター・国際日本学研究所